

令和元年度 多摩武蔵納税貯蓄組合連合会

税についての作文 清瀬市教育長賞

「税金のありがたみ」

清瀬第二中学校三年 平島 季穂

「税金の無駄遣いはさせません。」

選挙の時期になると、あらゆる政党や候補者が税金について取り上げ、実際にそれが選挙の争点となっています。これまで私は税金という言葉聞いてもピンときませんでした。まだ仕事をしておらず、収入を得ていないので、税金を払っているという感覚がなかったからです。買い物をするときに、消費税を払っていることは知っていましたが、何かに使われているのだろうなというくらいで、具体的に何にどう活用されているのかを調べたことはありませんでした。

しかし先日、私が病院へ行きお金を支払った際、受け取った領収書の中に税金のありがたみを知るきっかけがありました。領収書に医療費の内訳があり、保険料の欄には自分が支払った料金より大きい金額が明記されていたからです。調べてみると医療保険制度というものがあり、サラリーマンやその退職者、自営業者が納める税金から成り立っていることがわかりました。自分が気づかないところで税金の恩恵を受けていたのです。

これまで税金というものは一方的に納めるだけのものと思っていま

した。国民の三大義務だから納めなければならぬものだけ考えていて、そこからどう使われているのかは、働き始めたら向き合えばいいと漠然と考えていたからです。でも今回病院へ行ったことがきっかけとなり、保険料について調べたことよって、知らないところで当たり前のように恵みを受け取っていたことを知りました。

もし日本から税金が無くなってしまったらどうなるのでしょうか。働く対価として受け取るお金は増え、消費税がない分、支出負担も減ります。しかし医療費は全額自己負担となり、学校など教育施設の整備もされず、不便な生活を送らざるを得ません。警察や消防も組織として成り立たず、安心して生活することができなくなります。災害が起きても、復興はおろか、救出でさえも難しい状況に陥ります。国として当たり前のようにしてきた全てのことができなくなるのです。

税金の無駄遣いはあってはならないと思いますが、税金があるからこそ今の私たちの生活が成立していることも事実です。私はまだ働いたことがあります。税のしくみについてもっと学びを深めると同時に、現在税を納めている方への感謝の気持ちを忘れないよう心がけて生活をしたいです。

いずれ私も税金を納める立場になります。少子高齢化が進むなか、自分たちの世代の負担は少なくなかないと思いますが、私はやるべき義務を果たして社会に貢献できるような人になりたいです。